

授業ノートの作り方・授業や宿題に関する心構え

1. 授業を受けるときに用意するもの（1教科あたり）

- 筆記用具
- ノート最低2冊（解説ノート1冊、練習ノート1冊）
（ルーズリーフとフラットファイルなどのファイリングできるツールでも OK）
- スティックのり、または水のり（多めに必要です。大きいものがよいです。テープのりでもよいですが、コストがかかります。）

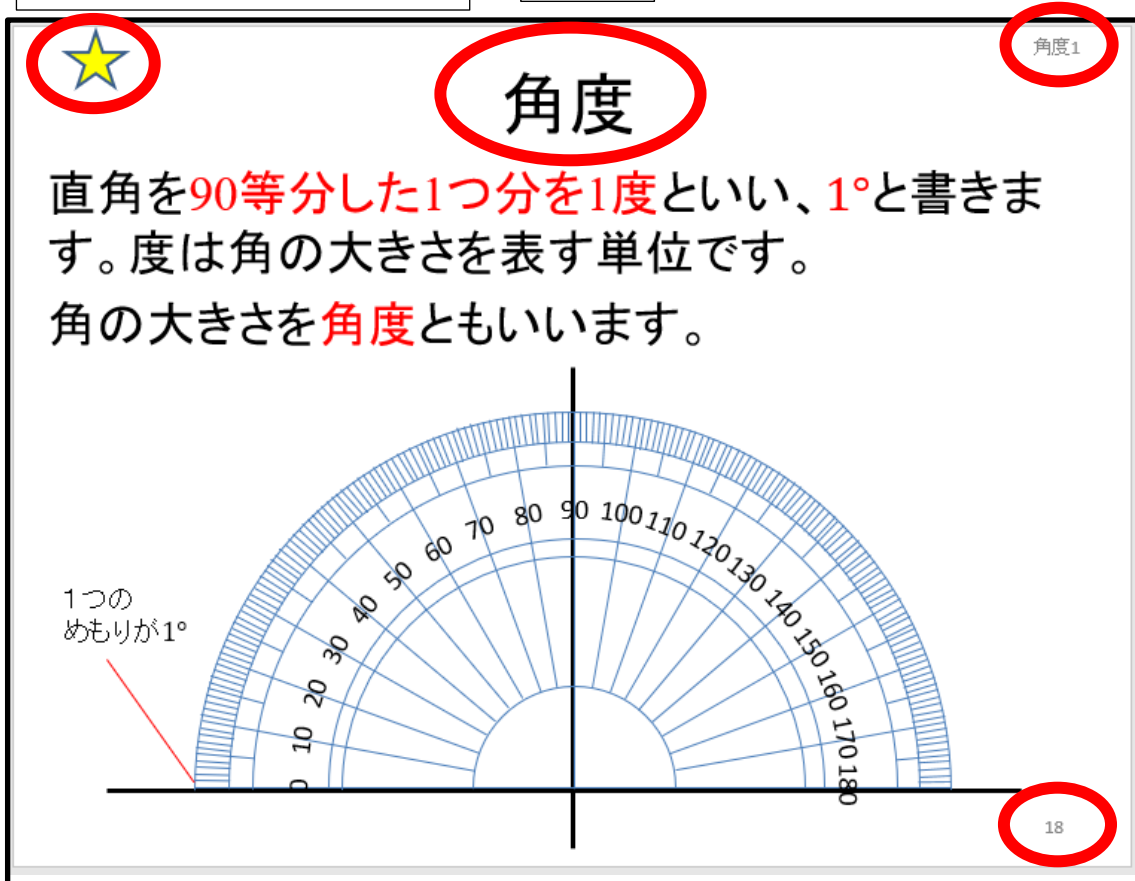
2. 授業資料の見方

授業にはA6サイズの授業資料を使います。授業資料の見方は次のとおりです。

★が解説用、●が練習用（左上）

テーマ

単元と単元番号（右上）



スライド番号（右下）

※パワーポイントのスライドの番号です。資料は解説用スライドと練習用スライドのみをお渡しします。ページはとびとびになっていますが、番号の小さい順に使っていただきます。

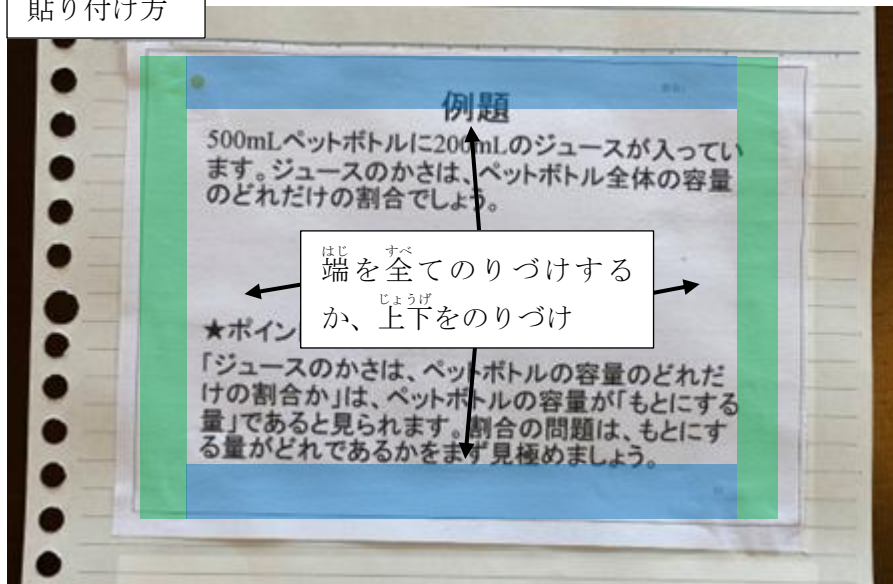
3. ノートの使い方

1つの教科に、2リングのバインダー（ペーパーファスナー・とじひもでも可）を1つ、ノートを1冊用意（ノートは予備にもう1冊持っているといい）します。バインダーは解説用に、もう1冊は練習ノートとして使います。

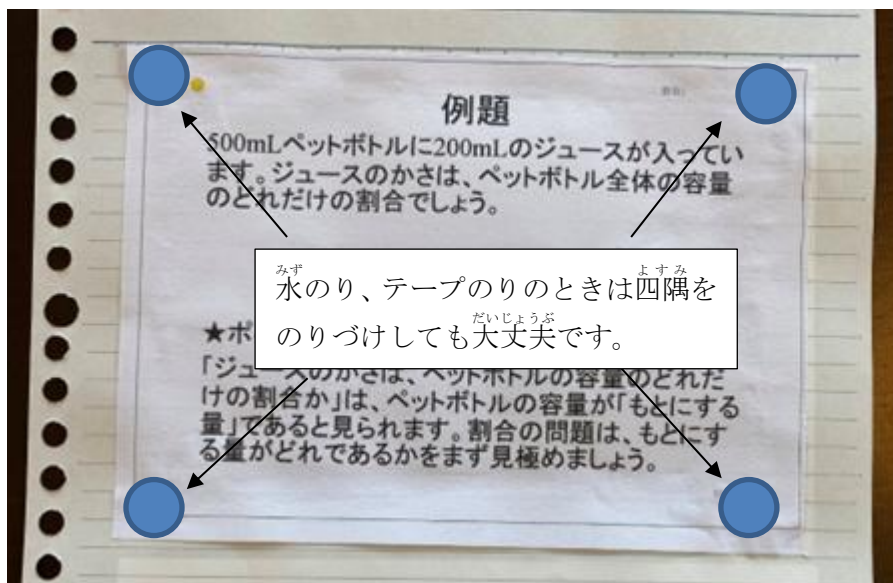
また、練習用のノートは宿題用ノートとして一緒に使ってください。

のりは消耗が激しいので、予備を含めて多めに用意しておいてください。

貼り付け方



バインダーはペーパーファスナーなどでも構いません。

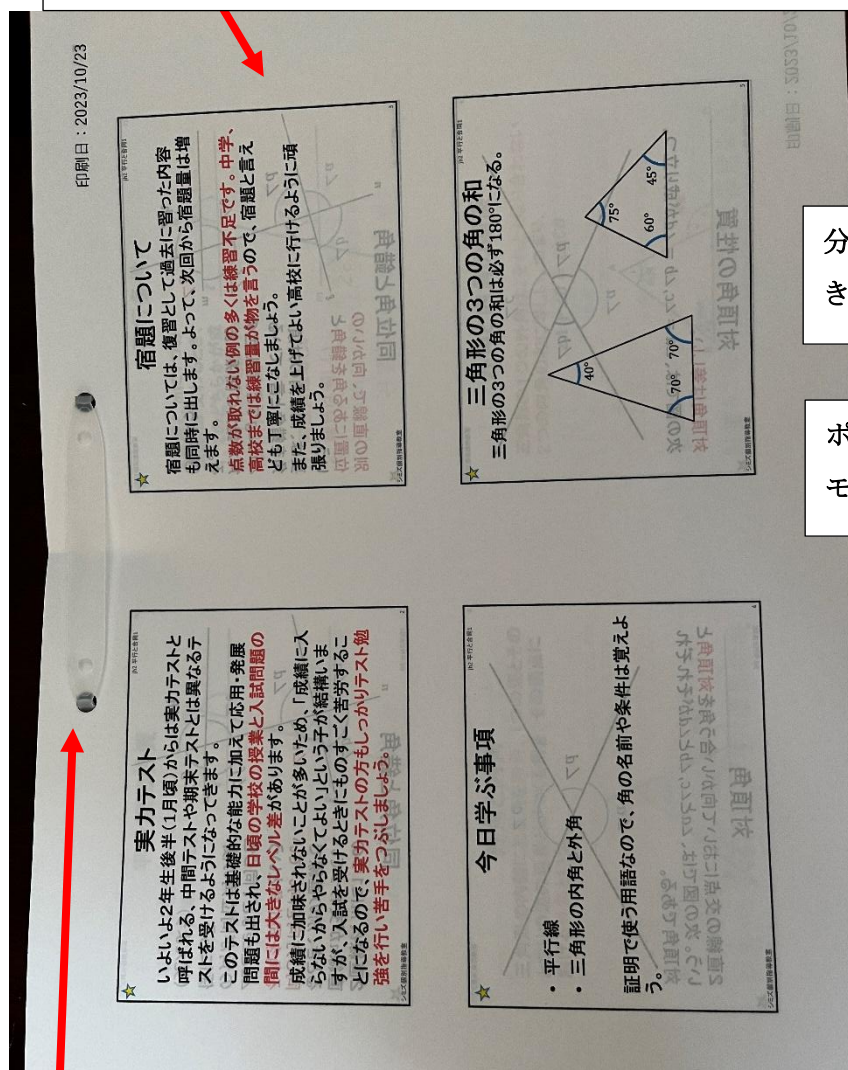


4. 解説ノートの作り方

左上に「★」がついている資料は、解説資料です。解説は大事なことをまとめているので、「★」の資料は「★」だけでバイナダーなどにまとめてください。

解説資料には、大事そうなところに蛍光ペンでアンダーラインを引いたりポイントとなりそうなことをメモ書きしたりして自分なりの解説ノートを作るとよいです。特に宿題や復習をするときには、このノートが役立つはずですよ。

解説資料は、先生の説明を一通り聞き終わって、メモなどをし終えてから2リングバイナダーなどにとじてください。



分からないことがあれば、そのときその場で質問しましょう！

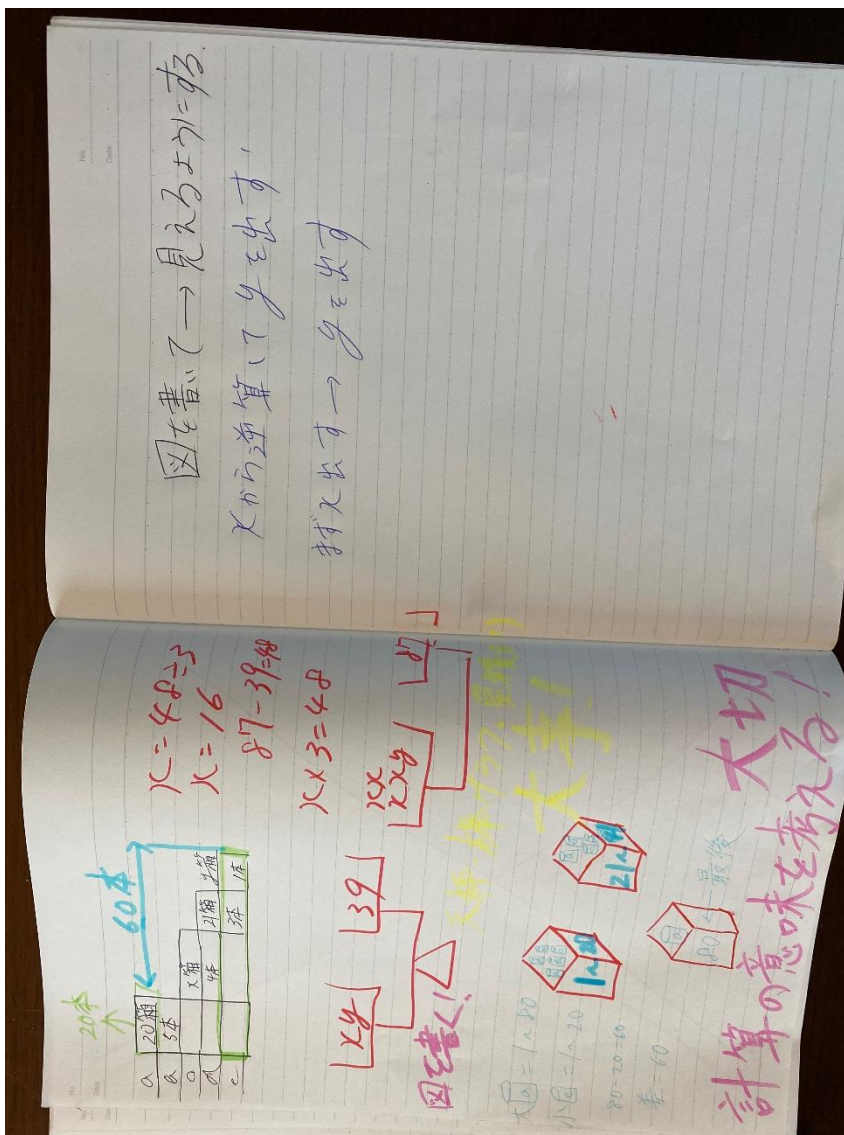
ポイントとなりそうなことはメモ書きしておきましょう。

ペーパーファスナーの場合は根元の部分を表面にすると、新しい資料を後ろにとじていけます。

ホワイトボードの^{うっ かた}写し方

講師の説明は様々な^{こうし}考え方や^{せつめい}コツが詰まっています。次の写真は優秀な生徒（受験^{じゅけん}算数に挑む^{せんすう}小学生）のまとめ方の例です。このようにして、^{はくばん}白板に書いてあることを^{うっ}写したり講師の説明を^{こうし}図や表などでまとめたりしましょう。^{いろ}色を^{じょうず}上手に使うこと、^{だいたん}ノートを^{つか}大胆に使うことが^{だいじ}大事です。

また、言われた^い内容もしっかり^{ないよう}書き残し、^か後日^{のこ}見直しましょう。



5. 練習ノートの作り方

練習ノートは練習問題を解くためのノートとして使います。左上に黄色の「●」がついている資料が練習ノート用の資料ですので、のりでノートに練習用の授業資料を貼り付けてから問題を解きます。ノートの使い方です習熟度も変わります。必ずこのようにしてノートを作りましょう。

練習ノート例1)

基本的には問題の授業資料を上貼って、授業資料の下側で問題を解いていきます。

問題はノートの上側にのりで貼り付けます。

例題
500mLペットボトルに200mLのジュースが入っています。ジュースのかさは、ペットボトル全体の容量のどれだけの割合でしょう。

★ポイント
「ジュースのかさは、ペットボトルの容量のどれだけの割合か」は、ペットボトルの容量が「もとにする量」と見られます。割合の問題は、もとにする量がどれであることをまず見極めましょう。

$200 \div 500 = 2 \div 5$
 $= 0.4$
A 0.4

計算と答えは資料の下に書いていきます。つめつめにせずに、余白をたくさん残して使います。

れんしゅう
練習ノート例2)

問題数が多いときは、次のように問題番号だけを写し取って計算していきましょう。
計算式やひっ算、間違えた部分は、消しゴムで消してはいけません。残しましょう。

練習

式と計算4

次の計算をしなさい。

(1) $(-13) + (+20) + (-12) + (+5)$

(2) $(-1) + (+999) + (+1) + (-99)$

(3) $(-0.5) + (+2.3) + (-0.5) + (+0.2)$

(4) $\left(+\frac{5}{3}\right) + \left(+\frac{4}{3}\right) + \left(-\frac{1}{3}\right) + \left(-\frac{2}{3}\right)$

(1) $= (+25) + (-25)$
 $= 0$

(2) $= \{+(999-99)\} + (1-1)$
 $= +900$

(3) $= (+2.5) + (-1)$
 $= +1.5$

(4) $= \left(+\frac{9}{3}\right) + \left(-\frac{3}{3}\right)$
 $= (+3) + (-1)$
 $= +2$

問題番号のみを写し取って、式を書いて計算を行っています。
間違えたときは、消しゴムで消さずに余白でなおします。

れんしゅう
練習ノート例3)

中学・高校レベルになると計算量が増えるため、段組み（紙の中央に縦線をひいて、記入できる箇所を2列に増やす）を活用するとよいでしょう。段組みを活用する場合のノートは、だとかかり計算できる余白が増えるのでA4サイズがおすすめです。

練習

場合の数応用1

p, q, r, s, t はそれぞれ9以下の自然数とする。
次の場合は何通りあるか。

(1) $p < q < r < s < t$

126通り

(2) $p \leq q \leq r \leq s \leq t$

1287通り

(1)

102030405060708090

$${}^9C_5 = \frac{9 \cdot 8 \cdot 7 \cdot 6 \cdot 5}{4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1} = 126$$

(2) 1を12通りと数える。

~~123456789~~

「2345678911111」

より

$${}^{13}C_5 \cdot {}^7C_7$$

$$= \frac{13 \cdot 12 \cdot 11 \cdot 10 \cdot 9}{4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1}$$

$$= 143 \cdot 9$$

= 1287

6. 宿題に関する心構え（効率的な学習に向けて）

- ・小学4年生から、ほとんどの授業で宿題を出します。
- ・前回の解説は、宿題をやるまえに必ず見直してください。
- ・宿題は、授業の日から早めに終わらせてください。遅くなるほど習熟は悪くなる上に時間がかかります。
- ・宿題は、発展問題や単語を除けば30分以上かかるほどの量を出すことは一部の単元を除きほとんどありません。しかし、内容をしっかり習得するためには復習が必要です。よって、宿題をこなすにあたり少しでも解き方に不安を感じたり内容を忘れてしまったりしたときには、解説ノートから解き方をもう一度理解しなおしたうえでていねいに宿題を解くよう心がけてください。

7. 学校では

塾で習ったからといって学校の授業をサボってはいけません。授業はしっかり聞きましょう。学校では先に演習が終わるなどして待ち時間が出たとしても、「他の生徒に教える」、「教科書を見直したり問題を通じて復習したりする」、「自分で問題を作ってみる」、「応用問題にチャレンジする」などして授業に参加してください。

なお、授業態度は学校の観点別評価の一部です。態度が消極的だといくらテストの点数がよくても成績はつきません。授業は塾・学校ともに積極的に受けてください。

8. その他の注意事項

- ・余った資料は家に持って帰ってください。
- ・少人数授業を受けている場合、練習問題を周囲の生徒よりも先に終えることもあると思います。先に終わった場合は、解説を見直して理解を深め、覚えるべきことを覚えるなどして有意義に時間を使ってください。